テロ集団の蛮行を機に

「海外で戦争する国」作りは認められない

「イスラム国」による蛮行は絶対許されない

日本人人質事件で、二人の尊い命が奪われました。いかなる口実を持っても残虐非道な蛮行は断じて許されません。無法なテロ行為を怒りを持って断固として糾弾するものです。

国民を危険にさらす安倍政権

安倍首相は、今回の事件にかかわって、米軍などによる「イスラム国」への空爆などへの自衛隊の支援が「憲法上は可能」と述べ、「邦人救出」を名目にした自衛隊の海外派兵のいっそうの拡大の検討を表明し、集団的自衛権行使を具体化する「安保法制」や「改憲」への意欲を改めて示しています。

テロ集団による蛮行を機に、「海外で戦争する国」づくりを推進しようとする安倍政権の動きは、絶対認められません。

求められているのは、憲法9条いかした平和外交

軍事攻撃で過激派の根絶はできません。軍事攻撃は一般市民をも巻き込み新たな憎しみを増幅させ、さらなるテロの土壌を広げることになります。

今、求められているのは、国際社会が結束して過激武装組織「イスラム国」に対処して国連安保理決議が求めるように、外国人戦闘員の参加を阻止し、資金源を断つなど、孤立させ、追いつめ、武装解除と解体に追い込んでいくことです。

今こそ、武力ではなく話し合いで紛争を解決する道を示している憲法9条を持つ国として、軍事ではない国際協力を進めることが求められています。

憲法９条が日本の信用に

●（自衛隊が来ることは）命を守るどころか、かえって危険です。私は逃げます。9条に守られていたからこそ、私たちの活動も続けてこられたのです。

アフガンで人道支援「ペシャワール会」
中村哲さん

●非軍事に徹した国際平和協力が他国にできない日本の独自性であり、これにより日本が国際的な信頼を獲得してきた。

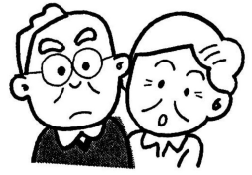
日本国際ボランティアセンターＨＰより

京丹後 米軍レーダー基地の運用停止を！

「安全・安心」対策なしに、レーダー稼働強行

《心配していた事が次々と》

米軍・軍属（１６０人）が京丹後に来て、約３カ月。地域住民の方をはじめ、府民が心配していた事態が進行しています。



２カ月で11件 米軍・軍属の交通事故

米軍や防衛省、京都府、京丹後市は、「米軍・軍属に対し、しっかり交通安全教室も開くから大丈夫」と言っていたのに、約2カ月余りの間に何と11件もの交通事故が発生しています。さらに、そのうちの5件を、京丹後市や京都府は把握出来ておらず、「事故を隠している」との新聞報道で初めて知るお粗末さです。

下の写真は、弥栄町の民家のすぐ横の電柱に、米軍関係者が運転する自動車が激突した写真です。鉄筋コンクリートの電柱は折れ曲がり、鉄筋がむき出しに。「猛スピードで民家に飛び込んでいたら…」「子どもたちが通学する時間帯だったら…」「基地に逃げ込まれたら」と不安の声がひろがっています。

騒音ひどくて眠れない

レーダーの試験運転の時から地域のみなさんを悩ませているのが、発電機から発生する低周波の騒音。基地から民家までは、近いところで２００㍍ほどしか離れていません。２４時間休むことなく鳴り響き、特に静まる夜間の騒音がひどく、「なかなか眠ることができない」「何とかしてくれ」と悲痛な声。

ところが米軍は、万全の対策を講じ、問題を解決してから稼働するのではなく、「防音壁」だの「音波で打ち消す」（試したが失敗）などと対策案を言うばかり。住民の苦痛を放置したまま、連日稼働させています。京都府も京丹後市も、住民の立場に立った毅然とした立場に立たず、米軍いいなりです。

基地の外で自動小銃携帯

「銃を基地外に持ち出すことはない」と米軍は約束しましたが、すでに破られ、民間の傭兵の警備員が、自動小銃をぶら下げて基地外へ出ているところを住民に目撃され大問題に。何もかもが、米軍とレーダ稼働が最優先。暮らしが脅かされています。

沖縄にも、京都にも米軍基地はいりません。